

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和 6 年 7 月 3 日

氏名 藤掛 みゆき

所属 比較教育社会学 コース

指導教員名 本田 由紀

1. 研究課題 スタンフォード大学・東京大学合同 レクチャーシリーズの受講
2. 計画する学術活動の実施期間 令和 5 年 10 月 20 日 ~ 令和 6 年 3 月 12 日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に : スタンフォード大学・東京大学合同 レクチャー/ディスカッション・研究発表)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	⑩ その他(レクチャー/ディスカッション・研究発表)
<p>【講義テーマ】 Stanford/UTokyo Partnership Program on International/Cross-Cultural Education and Global Citizenship Vol.3 (異文化理解教育とグローバルシティズンシップに関するレクチャーシリーズ vol.3)</p> <p>【活動頻度】 2023年10月～2024年3月(月に1回程度)</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解教育とグローバルシティズンシップに関するレクチャーを受講し、その後行われるディスカッションや学生が発表する場において自らの意見を積極的に発信する(全5回) ・研究発表を行う <p>【講義内容】</p> <p>1. 10/20/2023 Ms. Atsuko Jenks "Progressive Education -How Lifelong Learning and Problem Solving Are Encouraged in Schools-"</p> <p>2. 11/8/2023 Dr. Gary Mukai (Director, SPICE, Stanford University) "Introduction to the Stanford Program on International and Cross-Cultural Education"</p> <p>3. 1/18/2024 Professor Kazuaki Iwabuchi (Assistant Professor, CASEER, Graduate School of Education, UTokyo) "Is Nationalistic Internationalization Possible? Japan's Education Reform and Interactions among the Cabinet, Ministry of Education, and Teachers"</p> <p>4. 学生による研究発表 3/8/2024 Research Presentations</p> <ul style="list-style-type: none"> - Miyuki Fujikake (Graduate School of Education), "What does "proactivity" mean for high school teachers in Japan? " - Yi Liu (Graduate School of Education), "How hierarchy affects global capabilities: Focusing on parents' educational involvement" - Yuting Luo (Graduate School of Education), "Confronting diversity and inclusion challenges in Japanese universities: Lessons from Stanford's IDEAL initiatives" - Yuya Okada (Graduate School of Law), "Are all created equal?" 	

5.3/12/2024 Dr. Makiko Hirata (Instructor for the Stanford Program on International and Cross-Cultural Education (SPICE) Staff Pianist at the Colburn Conservatory of Music/ Shigeru Kawai Artist)
“Sound Communication: Music, Language and the Brain in the Age of AI”

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究創発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本講義は東京大学大学院教育学研究科学校教育高度化・効果検証センター (CASEER) がスタンフォード大学国際・多文化教育プログラム (SPICE) と連携し、異文化理解と多文化共生、グローバル教育の観点から実施しているものである。2023年度は10月から3月まで日米の教育に関わる研究者の発表をもとに、多様な観点からディスカッションが行われた。

また、上記の通り、申請者は2024年3月8日に研究発表の機会を得た。質疑応答では、参加者から「学校教育のブラックボックスを明らかにできていると思うか、それはなぜか」「どのようなデータによって現在の結論を得たのか」「学校階層による差はあるのか」など重要な視点から質問・コメントがなされ、申請者の研究や発表方法について考えを深める機会となった。

日米の研究者や学生の研究発表、またそれに基づいたディスカッションを通じて、申請者は異文化教育とグローバルシティズンシップについて理解を深めることができた。さらに、研究発表を行ったことも大きな成果となった。申請者にとってはこれが初めての英語による研究発表であり、その準備、実施、フィードバック全てにおいて学びがあり、自身の研究視野を広げることができたと考えている。

本活動を通じて、研究成果を英語で発信し、そのことを通じて SPICE の研究者と意見交換ができたことは、教育分野における国際的リーダー人材の育成という本プログラムの目的を満たしていると考えられる。

以上、国際研修の成果を報告する。